



洋子さんはこうして内科クリニックにかかってみたものの降圧剤の服用はかたくなに拒んだ。

彼女は風邪薬も頭痛薬も飲まないで、我慢すればそのうち治ると信じて生きてきた。まだまだこの方針は変えるつもりはない。

中田沙織さん（仮名）は51歳。専業主婦だったが、子どもに手がかからなくなったので、昨年からは9時から5時間パートタイムの仕事をお惣菜の店でやっている。子どもは娘2人とも東京へ出ていき、夫の母親と3人暮らし。義母が通っている内科クリニックへ付いて行ったとき、血圧計が置いてあったので測ってみたところ、152-90で驚いた。義母の診察中にクリニックの医師に尋ねてみた。

「先生、私のことなんですが、今その血圧計で測ったら152もあったんです。これって高血圧ですよ」

「そうですね。130-80から高血圧症です。152は明らかに高いので、薬で下げた方が無難です」

「すぐに飲まなくちゃいけないんでしょうか」

「寒い冬に脳卒中は多いので、しっかり下げておいた方がいいでしょうね」

結局、義母と同じ日に1か月に1度、内科クリニックを訪れ、降圧剤の服用を続けている。最近では120-70くらいのことが多く、やめたいと思っているが言い出せなくて困っている。

小田あすかさん（仮名）は53歳。独身で生命保険会社に勤務している。80歳の母と2人暮らしで家事はまだまだ元気な母に任せている。血圧は140-86だったが、120以下が脳卒中予防にはよいと雑誌で読み、近くの内科クリニックへ行き、降圧剤の処方をお願いした。

「先生、血圧は低い方がよいと聞きます。ネットなどでも調べ、3冊ほど本も読みました。それで血圧を110くらいにしたいと思います。降圧剤を処方していただけますか」

「血圧が140-86ですから、まずは血圧を毎日朝晩1日2回測ってみて、いつも高いようなら降圧剤をお出ししましょう」

「いえ、先生、それじゃあ心配なんです。何度測っても120以下にはならないんです。ぜひ降圧剤を出してください」

医師は生活習慣の改善でしばらく経過を見てからでよいのではと言ったが、どうしても120以下にしたいと切望し、降圧剤を続けている。110-60程度のことが多く、満足している。

さて、あなたはどのタイプだろうか。できるだけ薬を飲みたくないタイプの大田さん。仕方なく飲んでる中田さん。飲めば健康が保てると信じてる小田さん。患者さんにもいろいろなタイプがあり、患者さんの要望を聴き、それにこたえる必要もあります。もちろん血圧がいつも140以上の方は降圧剤を飲むべきだし、糖尿病や高脂血症、高尿酸血症なども程度によると思います。

そして薬を飲む前にやるべきことはたくさんあります。

もう1つのケースです。最近、よく遭遇する心房細動の患者さんです。非弁膜症性心房細動患者さんの脳梗塞年間発症率はCHADS2scoreで表されています。

CHADS2スコア(うっ血性心不全、高血圧、75歳以上、糖尿病を各1点、脳卒中/一過性脳虚血発作(TIA)の既往を2点とし、合計0~6点でリスクを評価)が用いられており、脳梗塞の年間発症率はこの合計スコアに比例して高くなります。これらのうち何も該当するものがない0点の人でも心房細動があるだけで、年間1.9%の方が脳梗塞を発症します。次いで1点:2.8%、2点:4.0%、3点:5.9%、4点:8.0%、5点:12.5%、6点:18.2%となります。

そして心房細動の患者さんが脳梗塞を起こすと心原性脳塞栓症といわれ、長嶋茂雄さんのように重症化する患者さんが多く、また再発率も75%と非常に高くなっています。

心房細動の患者さんにはこれらのことを説明し、抗凝固薬という血液をさらさらにして心房内に血栓ができにくくする薬の服用をお勧めします。もちろん副作用も話しておかなければいけません。もっとも怖い副作用は出血です。消化管出血や脳出血。とにかく脳塞栓が致命的になることもあれば、これらの出血も重大な病状を引き起こす可能性があります。

さて、佐藤一郎さん(仮名)は61才。心房細動を検診で指摘され、受診するように言われました。総合病院の循環器内科では心房細動や脳塞栓の恐ろしさを聞かされ、医師が言うままにワーファリンの服用を始めました。その他、多くの説明を聞いたはずですが、血液検査をして、次回の受診を予約し薬の説明書をもりましたが、読んでいません。ただただ医師の言うことを素直に聞いていただけでした。

次に鈴木次郎さん(仮名)69才は最近、ウォーキングの際に息苦しさを覚え、近くの内科クリニックを受診しました。心電図や血液検査などを済ませ、医師から心房細動を指摘され、薬を服用するように勧められました。ワーファリンや最近の新しい薬の説明を聞き、毎回血液検査をしなくてよいとのことで新しい抗凝固薬の処方をお願いしました。薬の説明書を隅から隅まで熟読し、来週には紹介していただいた脳神経外科で脳ドックの予約も済ませました。

そして高橋三郎さん(仮名)65才。定年退職前に人間ドックにかかり、心房細動を指摘されました。かかりつけ医を以前から決めている高橋さんは早速相談しました。かかりつけ医はCHADS2scoreを説明し、高血圧の1点のみだから抗凝固薬を勧めもしないし、やめろとも言わない。高橋さんが家族歴や周囲の人たちの意見を聞いて決めればよいと言います。妻や息子、そして元会社の同僚などの意見を聞き、しばらく薬は飲まないで経過をみることにしました。CHADS2scoreが4点以上になれば飲まなくちゃと決めています。

医者が多くが心房細動、即抗凝固薬の服用を勧めます。私はひととおり説明した後、年齢と既往歴、そして本人の病気に対する考え方を考慮して方針を決めています。いくら薬の服用を勧めても、たとえ処方箋を切っても、たとえ薬を出しても、飲まない人はたくさんいます。

しかしその中に、あのとき薬をはじめときゃよかったと後悔する方はいらっしゃいます。むずかしいです、どうするべきか。

=====

▼こちらから「Salud!えひめ」のバックナンバーをご覧ください。

<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/cat130>

▼配信停止を希望される方はこちらから

[https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520\\_kly\\_1/index.do](https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_1/index.do)

▼登録情報を変更されたい方はこちらから

[https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520\\_kly\\_2/index.do](https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_2/index.do)

※現時点の登録情報が記載されていますので上書き入力にて変更してください。

-----

Salud（サルー）とはスペイン語で「健康」「乾杯」を意味する言葉です  
同僚や友人ご家族に「Salud!えひめ」をぜひご紹介ください。

---

全国健康保険協会（協会けんぽ）愛媛支部

〒790-8546 松山市千舟町4-6-3 アヴァンサ千舟 1階

TEL 089-947-2100（代表）

ホームページ <http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/>

---

今月も最後までお読みいただき、ありがとうございました。なお、本メールに返信されてもご回答できませんので、ご了承ください。